

令和7年6月25日

東京保育専門学校
校長 榎本 勝己 殿

東京保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和6年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①野上 秀子（東京都私立幼稚園連合会理事、私立久我山幼稚園園長）
- ②西 隆太郎（お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科教授）
- ③名塚 康恵（公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会事務局長）
- ④山本 祥子（れんげ桜が丘保育園園長、本校卒業生）
- ⑤松浦 栄子（私立サンタ・セシリア幼稚園園長）
- ⑥工藤 幸代（保育科1部在学学生保証人（保護者））
- ⑦横手 有佳子（保育科2部在学学生保証人（保護者））
- ⑦横田 純二（横田公認会計士・税理士事務所所長）
- ⑧大沼 康（株式会社矢島工務店代表取締役、東京商工会議所杉並支部地域振興委員会
高円寺ブロック 副ブロック長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和6年11月5日（オンライン会議）
- 第2回委員会 令和7年3月24日（オンライン会議）

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1 重点目標について

重点目標について、各目標に向かったの取り組みは評価できる。一方、達成状況に関しては課題が残るものもあるため、来年度に向けて一層の努力を期待している。

特筆すべき点として以下を挙げる。

- ・ 予算削減と教員の担当科目増加のバランスに注意が必要。
- ・ 二部（夜間部）の充実は学校の強みになる可能性がある。現場の教職員と連携し、学校の良さを活かす取り組みが重要。
- ・ ホームページの情報量が多すぎるため、焦点を絞った情報発信をすることで、学生募集へも改善が期待できる。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

昨年度から引き続き、建学の精神、教育理念を明確にしており、それに基づく方針や目標設定があり、目標達成のために堅実な取り組みが行われていることを評価する。課題と感じられる部分もあるので、引き続き改善に取り組んでいただきたい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・学校の理念や精神が教職員に受け継がれている点は素晴らしい。
- ・学校の特徴、本質を再認識し、それを効果的に在学生や関係者、検討者に伝えることが重要。

2 学校運営

基準の各項目について、運営方針のもと、それぞれ事業計画として策定されており、評価できる。ただし、計画に対して達成できていないものもあるので、引き続き達成に向けて努力していただきたい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・入学志願者の減少が、大きな課題となっている。いかに多くの方に、当校を知ってもらうかが重要となってくる。魅力を伝える工夫として、卒業生の協力と共に、SNSのさらなる活用が求められる。

3 教育活動

理念・目的・育成人材像に沿って教育課程の編成が行われ、シラバスや履修カルテなどを活用し、計画的な教育活動が行われている。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・カトリックの精神を明確に打ち出し、心の教育を大切にしている点を評価。
- ・教員向けの ICT 活用研修は、今後、活用が増えていくことを踏まえるととても重要なことで、早めの取り組みを評価したい。

4 学修成果

就職率、就職先選択肢の幅広さ、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価等からその学修成果は高く評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・例年通りだが、就職率や公務員合格率は素晴らしい実績で、高く評価できる。

5 学生支援

学生への支援体制として、就職支援や学校生活上のサポート体制、学生相談の仕組み、経済的支援の制度が充実しており評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・不登校経験者への支援を積極的に取り組んでいる点が評価できる。こういった学生について、就職後のケアも今後考えていく必要があるのではないか？
- ・夜間部の学生は教職員の手厚い支援によって保育者になるという目標を実現できていると思う。このような夜間部の存在が、他の学校にない当校の強みでもあるので、継続してほしい。

6 教育環境

教育環境として、施設設備、現場実習の機会をしっかりと確保することができ
ており、評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・学生の ICT 活用スキルを高めることは、入職後も役立つことが多くなると
思うので、引き続き取り組んでほしい。
- ・就職との関連で、実習だけでなく短期の現場体験実習も入職後をイメージ
する上で大切なので、引き続き取り組んでほしい。

7 学生の募集と受入れ

2025年度入学生の状況について、非常に厳しい結果となり、ここ数年の減少傾向に歯止めがかかっていない。効果的な広報施策について早急に見直しが必要である。事実に基づく広報活動、適正な入試制度の運用等については、例年通りではあるが、しっかりと実施できており評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・高卒現役生の志願者数が減少しているということで、広報活動の方向性を見直す必要もあると思う。広報部門を3人に増員したということなので、その取り組みに期待したい。
- ・一方、高校進学フェーズにおいても保育学科希望者の減少が顕著になっており、課題。家庭科教育振興会においても、家庭科保育技術検定の級の名称変更により、保育系へ志望者の興味喚起を期待している。
- ・保育業界のブラックイメージ払拭のため、行政やマスコミも巻き込みながらの取り組みが必要になってきている。

8 財 務

学生数の減少に伴う収入減により、財務状況は厳しい状況が続いている。校長を筆頭に、学校が一丸となって改善に取り組んでほしい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・財務的に厳しい状況ではあるが、明るい材料（見学者数の増加）もあるので、そのあたりも校内に積極的に周知することも大切だと思う。
- ・経営意識の改革を6、7年謳っているが、実際に現場の意見や改善策を聞く必要がある。校長が筆頭に立ってぜひアイデアを吸い上げていただきたい。

9 法令等の遵守

関係法令に関する最新の情報を把握し、法令遵守の観点から適切な学校運営が行われている。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・学生募集のために SNS の積極活用が求められている一方、在学生の様子を掲載する場合には個人情報の保護についての意識を欠かさないようにしてほしい。広報担当者だけでなく、教職員全体での意識共有の徹底が必要。

10 社会貢献・地域貢献

地域貢献の観点から、もう少し地域との連携を強化していくことを求めたい。
それが学校の認知にもつながっていくと考えられる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・地域貢献という意味では、高円寺の魅力を学校のプラス要素として活用できていない。高円寺で行われるお祭りなどに出展したり、ホームページにイベント情報などを掲載するなどすると良いと思う。
- ・中央線沿線の「あるあるプロジェクト」などを活用し、駅のラックや近隣施設で広報活動を行うのも良い。